



## ＡＬを学力向上につなげる「ＡＬ指数」と「Ｒ８０」

茨城県立並木中等教育学校 校長 中島 博司  
２０１６年 ７月１日

私は、２０１５年４月より「アクティブ・ラーニング」（ＡＬ）について研究を進めています。

２０１５年８月５日、目黒雅叙園で開催された「アクティブ・ラーニング研修会」で、（株）Findアクティブラーニングの永井充社長に初めて会いました。その時、本サイト「Find! アクティブ・ラーニング」を立ち上げるという話を聞き、すぐに登録しました。おそらく会員番号１番です。そのサイトが、現在、利用者数５００００名を越えるプラットフォームに成長し、たいへんうれしく思っています。

さて、２０１５年は、まさに「高校アクティブ・ラーニング元年」と言える年でした。私は、多くの研修会やセミナーに積極的に参加して勉強させていただきました。また、多くのＡＬ型授業も実際に見学しました。そして、私自身が完全に「アクティブラーナー（能動的学習者）」になってしまいました。

２０１６年は、「高校アクティブ・ラーニング・セカンドステージ」だと思っています。

ＡＬには、大きく分けて「イベント型」と「通常授業型」がありますが、現在皆さんが追究しているのは、「通常授業型」だと思います。私は、多くのＡＬ型授業を見ていて、現在次のことが課題であると考えています。

- 課題 ① ＡＬ型授業が形だけになってはいないか。
- 課題 ② アクティブラーナー（能動的学習者）の育成という目的に向かっているか。
- 課題 ③ ＡＬか講義かという二項対立的な議論になっていないか。
- 課題 ④ ペアワークやグループワークだけで学力は向上するのか。

③の課題に対して、２０１６年３月に私が考案したのが「ＡＬ指数」です。

１. 「ＡＬ指数」とは、ＡＬの実施率を示す指数です。
２. ５０分授業で ＡＬ５分なら「ＡＬ１０」、ＡＬ１０分なら「ＡＬ２０」です。
３. 週５時間の授業でＡＬ１時間の場合も「ＡＬ２０」です。

「AL指数」は、本校では、すでにAL用語として定着しています。  
私は、高校の授業は、たいへん指導内容が多いため、従来型の知識伝達の講義も大切だと思っています。現在、私の考える高校ALの理想は「AL20」です。  
また、この「AL指数」を活用することで、今後「ALの研究」が進むものと考えています。たとえば、ALの効果の検証等に、この指数を横軸として使うことができるということです。

次に④の課題に対応するために、2016年5月に私が考案したのが「R80」です。

- 1 「R80」の読みは「アールエイティー」です。
- 2 Rは「リフレクション（振り返り）」と「リストラクチャー（再構築）」のRです。
- 3 80は、自分で80字以内の文章を書くという意味の80です。
- 4 基本ルール①……ALの最後に、リフレクション（振り返り）として、ペアやグループで話し合ったことなどを、リストラクチャー（再構築）して、80字以内で書きます。
- 5 基本ルール②……必ず2文（2センテンス）で書き、その2文を接続詞で結びます。
- 6 目的……思考力・表現力・論理力を育成します。→それが学力向上につながります。
- 7 なぜ2文80字以内か……1文は50字前後が理想とされています（簡潔に明確に書く）。  
★「新テスト」における短文記述式問題の文字数が80字以内です。

私は、ALは「学力向上」が伴うことによって、さらに広がっていくと思っています。  
そのために考案したのが「R80」です。確かに少しハードルが高いかもしれませんが、ALを「セカンドステージ」に引き上げるためのアイテムです。  
本校では、すでに授業の振り返りや、課題追究の記述用紙として活用されています。  
今後、多くの先生方の工夫・改良を経ながら「R80」が全国の教室に広がっていくことを期待しています。

- ◆今回、私の考案した「R80」の様式のエクセルデータとPDFを提供いたします。
- ◆自由に改良してお使いいただいて結構です。

なお、私が校長をつとめている茨城県立並木中等教育学校のホームページに、校長通信「並木ドリーム」を掲載しております。その中には、本校の「アクティブ・ラーニング」の取組も紹介しています。

現在、「アクティブ・ラーニング」については、「並木ドリーム第1・27・31・32・35・50号」に記載があります。  
[http://www.namiki-cs.ibk.ed.jp/?page\\_id=548](http://www.namiki-cs.ibk.ed.jp/?page_id=548)

私は、前述の2015年8月5日の研修会で、「アクティブ・ラーニングの伝道師」である小林昭文先生（産業能率大学教授）に会い、先生の名著『アクティブラーニング入門』にサインをお願いしました。そこには「中島博司様 一緒にALを広げましょう 小林昭文」と書いていただきました。

最近、私も「アウトプット」の機会をいただくようになり、各種研修会で講師をつとめています。これからも、生徒たち、先生たちのために、ALを広げる努力を続けたいと考えています。

私の考える「アクティブ・ラーニング」の目的は、「アクティブラーナー（能動的学習者）」を育成することです。「アクティブラーナー」になると、毎日が明るく楽しく充実します。  
そして、「アクティブラーナー」ならば、AI（人工知能）等の発達により大きく変化する未来にあっても、柔軟に対応していけると、私は信じています。

このサイトをご覧になっている皆さん。一緒に、日本の教育を変えていきましょう。